

樹医からのアドバイス (Vol.26)

～アブラムシから樹木を守りましょう～

出雲市樹医センター

樹医 渡部 勝

アブラムシは、葉や新芽に群がり、汁液を吸汁することにより樹木を加害します。見つけたら、被害が広がらないうちに、早めに対処することが重要です。

【アブラムシによる被害】

アブラムシは、植物の葉などに群生し、汁液を吸汁することにより、植物の生長を阻害します。また、葉などが縮れ、変形するため、美観も損ねてしまいます。

それだけではなく、アブラムシが出す植物をベタベタにする排泄物（甘露）は、黒いすす状のカビが葉を覆う、すす病の原因となります。すす病になると、光合成が阻害されるため、樹勢が弱くなります。

また、アブラムシはウイルスの媒介者となることもあります。植物がウイルス病に感染してしまうと、治すことができません。

【アブラムシの防除・駆除】

アブラムシは日当たりが悪く、風通しの悪いところを好むため、樹木を適切にせん定し、日当たり、風通しを良くしましょう。

アブラムシを見つけたら、すぐに駆除することが大切です。

効率的なのは、殺虫剤の散布です。

発生数が少ない場合は、テープでアブラムシを取り除くことも有効です。

また、アブラムシを食べてくれるテントウムシなどがいる場合には、アブラムシなど吸汁性の害虫にのみ効果のある粒状の殺虫剤も効果的です。



イヌマキに寄生したマキシムハアブラムシ